慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	三田史学会例会 ; 東洋史談話会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.42, No.1 (1969. 8) ,p.133- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690800-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

てコーランが使用する「主要語」を微細にわたつて取り出し、それらが互にからみ合つて形成する意味論的網の目を分析し、それによつてそれらの「主要語」の背後に伏在する創造と終末の諸概念の構造を考究し、更に進んで、かかる分析的操作に基礎付けられて、コーランが創造と終末に関していかなる思想を、いかなる形で展開しているかを考究したものである。

取扱われた主題の思想史的、文化史的重要性、確実な方法論的原理、研究そのものの現代的な立場等がこの研究を極めて独創的なものとしている。

全篇を通観するに、古代ヘブライの予言者たちの世界創造観、終末観などとの比較がやや簡略に過ぎたのではないかと思われる。また従来のイスラム神学者たちのこの方面についての見解なども、もつと詳しく紹介したならば著者の独創の意見が一層明確に表現されたのではないかと惜しまれる。しかし、これらの点も、決して著者が右の如き方面に対する研究を等閑視したことを意味するものでないことは、この論文の行間から充分に窺うことが出来るのである。

右の如き理由から著者牧野信也君は文学博士の学位を受ける資格あるものと考えられる。

昭和四十四年二月十日

主査　慶応義塾大学教授　文学博士　前嶋信次
副査　慶応義塾大学教授　文学博士　井筒俊彦
同　慶応義塾大学教授　ドクトゥール・エス・レットル　松本信広

彙報

三田史学会例会

昭和四十四年五月二十一日　於三田西校舎五一七番教室

新入生歓迎会

講演

タイの史跡　西岡秀雄氏

東洋史談話会

昭和四十四年五月二日　於学生食堂南カーテンルーム

新入生歓迎会

昭和四十四年五月二十九・三十日

春季旅行　伊豆・韮山郷土史料館見学、吉奈温泉・堂ケ島方面

昭和四十四年六月二十五日　於西校舎五一三番教室

研究発表

香港の農村と漁村　可児弘明氏